

事項	リンゴサビダニはりんごの果実品質に影響しないのでハダニ類と間違えないようにする														
ねらい	リンゴサビダニはりんご葉に寄生しても、果実品質には影響しないことが明らかとなったので、参考に供する。また、リンゴサビダニが寄生した葉の症状はハダニ類による症状と類似し、混同されているので、ハダニ類と区別するための診断方法をあわせて示す。														
指導参考内容	<p>1 果実品質に対する影響 リンゴサビダニがりんご葉に寄生した場合でも、果実品質には影響しない。</p> <p>2 診断方法 リンゴサビダニは極めて小さく、肉眼や低倍率のルーペでは葉上での発生を確認するのは困難である。葉にハダニ類の発生が確認されず、下表の症状が進行する場合には、リンゴサビダニの寄生による症状である可能性が高い。</p> <p>表 リンゴサビダニ、リンゴハダニ及びナミハダニによる葉の症状の比較</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>リンゴサビダニ</th> <th>リンゴハダニ</th> <th>ナミハダニ</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>寄生部位</td> <td>葉の表裏（特に裏に多い）</td> <td>葉の表裏</td> <td>葉の裏</td> </tr> <tr> <td>葉における症状</td> <td> (1) 若葉 ① 褐変は葉の表裏で生じ、暗褐色を呈するが、表側の表面がかすり状に色が抜けることはない。 ② 褐変の進行は葉柄側から始まり、徐々に全体に広がる。 ③ 新梢の伸長に伴って移動しながら増殖するので、新梢では先端部ほど褐変程度が強くなる。 ④ 密度が高い場合は、葉の縁が反ることがある。 (2) 成葉 ⑤ 夏季以降に、葉の表側が銀葉病に似た鈍い鉛色を呈することがある。 </td> <td> ① 褐変は葉の表裏で生じ、表側の表面は色が白っぽく抜け、かすり状になる。 ② 褐変は葉柄側から進行することはない。 ③ 褐変は茶褐色を呈する。 ④ 葉の縁が反ることはない。 ⑤ 葉が銀葉病症状を呈することはない。 </td> <td> ① 褐変は葉の裏側だけに生じる。 </td> </tr> </tbody> </table>			項目	リンゴサビダニ	リンゴハダニ	ナミハダニ	寄生部位	葉の表裏（特に裏に多い）	葉の表裏	葉の裏	葉における症状	(1) 若葉 ① 褐変は葉の表裏で生じ、暗褐色を呈するが、表側の表面がかすり状に色が抜けることはない。 ② 褐変の進行は葉柄側から始まり、徐々に全体に広がる。 ③ 新梢の伸長に伴って移動しながら増殖するので、新梢では先端部ほど褐変程度が強くなる。 ④ 密度が高い場合は、葉の縁が反ることがある。 (2) 成葉 ⑤ 夏季以降に、葉の表側が銀葉病に似た鈍い鉛色を呈することがある。	① 褐変は葉の表裏で生じ、表側の表面は色が白っぽく抜け、かすり状になる。 ② 褐変は葉柄側から進行することはない。 ③ 褐変は茶褐色を呈する。 ④ 葉の縁が反ることはない。 ⑤ 葉が銀葉病症状を呈することはない。	① 褐変は葉の裏側だけに生じる。
項目	リンゴサビダニ	リンゴハダニ	ナミハダニ												
寄生部位	葉の表裏（特に裏に多い）	葉の表裏	葉の裏												
葉における症状	(1) 若葉 ① 褐変は葉の表裏で生じ、暗褐色を呈するが、表側の表面がかすり状に色が抜けることはない。 ② 褐変の進行は葉柄側から始まり、徐々に全体に広がる。 ③ 新梢の伸長に伴って移動しながら増殖するので、新梢では先端部ほど褐変程度が強くなる。 ④ 密度が高い場合は、葉の縁が反ることがある。 (2) 成葉 ⑤ 夏季以降に、葉の表側が銀葉病に似た鈍い鉛色を呈することがある。	① 褐変は葉の表裏で生じ、表側の表面は色が白っぽく抜け、かすり状になる。 ② 褐変は葉柄側から進行することはない。 ③ 褐変は茶褐色を呈する。 ④ 葉の縁が反ることはない。 ⑤ 葉が銀葉病症状を呈することはない。	① 褐変は葉の裏側だけに生じる。												
期待される効果	<p>1 リンゴサビダニの特性を理解することにより、本種だけを対象とした不要な防除を避けることができる。</p> <p>2 ハダニ類（リンゴハダニ、ナミハダニ）による被害との区別が可能になり、適切なハダニ類防除を実施できる。</p>														
利用上の注意事項	りんご果樹課資料第376号、「りんごに発生するハダニ類防除の手引き」も合わせて活用する。														
担当部署（担当者名）	青森県農林総合研究センターりんご試験場 病虫肥料部 (木村佳子)	対象地域	県下全域												
発表文献等	平成15～18年度青森県農林総合研究センターりんご試験場試験研究成績概要集														

【根拠となった主要な試験結果】

表1 リンゴサビダニの発生量の多少と収穫時の果実品質
(平成16年 青森農林総研りんご試)

区	糖度 (%)	果径 (mm)	赤色度	クロロフィル
多発	15.3±0.6	83.5±2.4	84.7±7.4	43.1±2.2
少発	15.2±0.8	82.9±3.4	90.7±7.4	44.1±5.2
有意性	なし	なし	なし	なし

(注)「ふじ」を供試。11月8日、各区300果/6樹を収穫。
11月9日、反射型光センサー選果機(三井金属社製)で測定。赤色度は数値が多いほど赤が濃い。
多発区は葉の褐変あり、少発区は葉の褐変なし。

表2 リンゴサビダニの発生量の多少と収穫時の果実品質
(平成18年 青森農林総研りんご試)

区	糖度 (%)	横径 (mm)	重さ (g)	着色
多発	13.6±0.9	86.5±4.3	317.1±43.2	5.8±0.5
少発	12.4±0.9	85.6±2.9	313.0±32.5	5.4±0.7
有意性	なし	なし	なし	なし

(注)「ふじ」を供試。11月6日、各区24果/3樹を収穫、調査。糖度は糖度計、横径はノギス、着色はふじ用カラーチャート(0~6)で測定。
多発区は葉の褐変あり、少発区は葉の褐変なし。



写真1 リンゴサビダニの雌成虫



写真2 リンゴサビダニによる褐変症状(葉柄側に生じている)

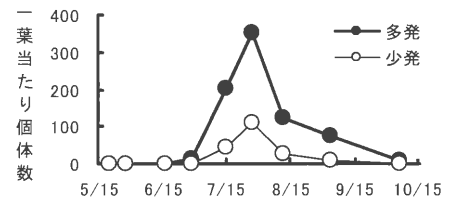


図1 リンゴサビダニの発生推移
(平成16年 青森農林総研りんご試)
(注)表1の調査区に同じ

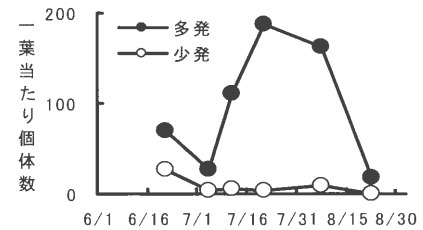


図2 リンゴサビダニの発生推移
(平成18年 青森農林総研りんご試)
(注)表2の調査区に同じ

表3 葉での寄生状態
(平成18年 青森農林総研りんご試)

部位	個体数(割合)
表側	2.0/cm ² (21.3%)
裏側	7.4/cm ² (78.7%)

(注)「ふじ」を供試。7月5日調査

表4 新梢葉の部位別個体数
(平成18年 青森農林総研りんご試)

部位	あおり9	ふじ	世界一
上位	1.4/cm ²	33.4/cm ²	30.6/cm ²
中位	0.3	11.3	12.6
下位	0.1	6.0	3.9

(注)新梢を3区分し、7月上旬に調査

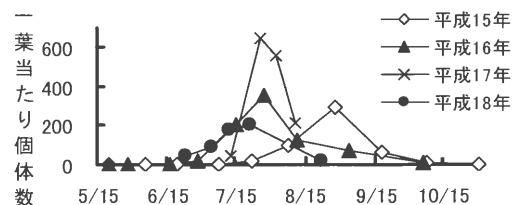


図3 リンゴサビダニの発生消長
(平成15~18年 青森農林総研りんご試)